Vol.19　コードトーン・アルペジオを指板全体で弾いてみる　～その 1～

では、vol.19、始めていきましょう。

今回から 2 回にわたって、これまでやってきた、コードトーン・アルペジオのまとめの様なフレーズを弾いてみましょう。

譜例ではテキストでやっていない形も出てきますが、インターバル自体は同じものです。

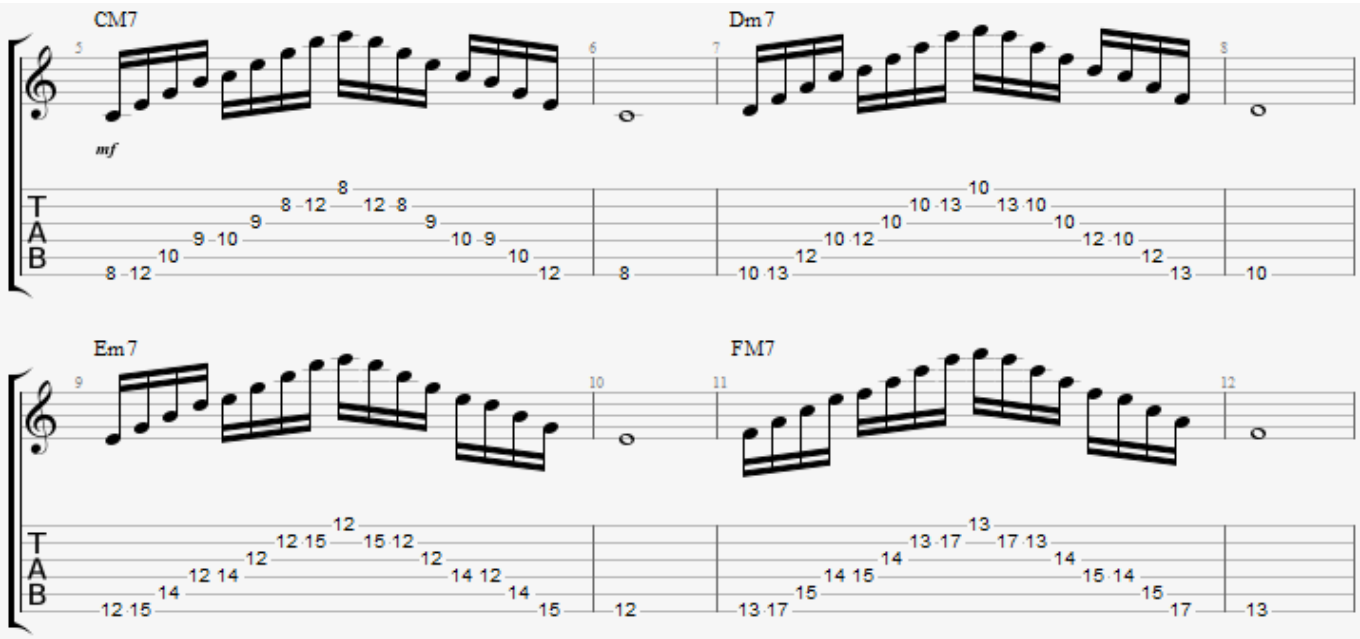
この手のアルペジオも、やろうと思えば結構な量の弾き方を出せますので、過去に学んだものとの関係性などを考えながら取り組んでみて下さい。

では、譜例は以下になります。

やる事としては、C キーを想定して、各ダイアトニックコードのアルペジオを順に弾いて行く、と言うパターンですね。

今回は 6 弦ルートです。

譜例 1



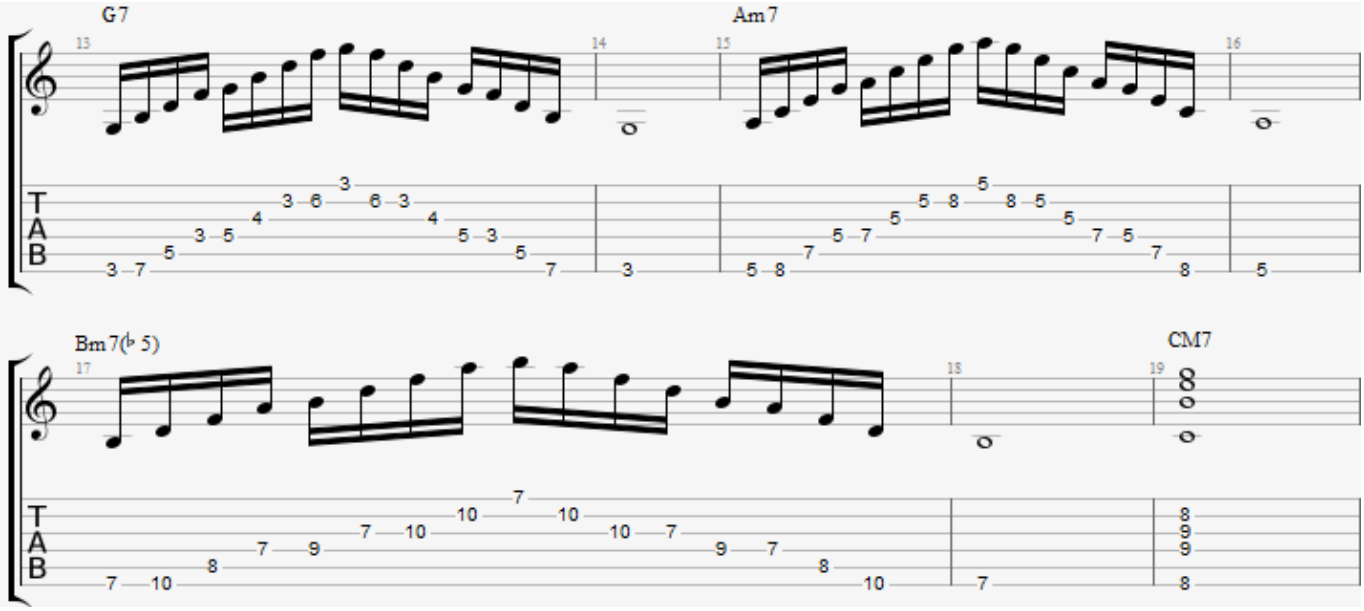
小節数が増えてしまうので、16 分音符にしてありますが、実際に弾くときは 8 分音符にしてもらっても構いません。(※必ずしも速く弾く必要はありません)

C キーのダイアトニックコード・アルペジオを 6 弦 8 フレット C 音から始めると、すぐにハイポジションに行ってしまうので、FM7 は 6 弦 1 フレットから始めるのもありでしょう。

Copyright (C) 2016 shunichi onuma All Rights Reserved

次の G7 からはローポジションに移ります。

譜例 2



こう言ったアルペジオがスムーズに弾けると、ポジション感覚が強くなり、横移動が怖くなくなってきます。

指使いは特に指定してありませんが、形が一定なので大方決まって来るはずです。

ただ、同じ形でも、ローポジションとハイポジションでは、指使いを変えた方が弾きやすくなる場合もあるでしょう。

例えば FM7 のアルペジオを 13 フレットから始めるのと、1 フレットから始めるのでは、指のストレッチ具合が違いますね。

その時、指使いを変えた方が良い、と感じるならば、ローポジション用とハイポジション用に分けてしまうのも手です。

この辺り、柔軟に対応していきましょう。

では今回は以上になります。

ありがとうございました。

大沼

Copyright (C) 2016 shunichi onuma All Rights Reserved